

スロットル全閉位置学習及び急速TAS学習方法

概要

電子制御スロットル又はECCS C/U のコネクターを外した場合は修復後、スロットルの全閉位置を学習(スロットル全閉時のスロットルセンサー出力値を学習)する必要があるため、スロットル全閉位置学習を行う。
また、電子制御スロットル又はECCS C/U を交換した場合には、必要最低限のアイドル空気量を学習する必要があるため、スロットル全閉位置学習及び急速TAS 学習を行う。
なお、アイドル回転数又は点火時期が基準値から外れている場合も急速TAS 学習を行う必要がある。急速TAS 学習は従来のIAS によるアイドルベース回転数調整に相当するものである。

1. アクセル全閉位置学習

1. キースイッチをONにする。(約2秒以上)
2. キースイッチをOFFにする。(約10秒以上この状態を保持)
3. 再度キースイッチを2秒以上ONにする。(学習終了)

2. 急速TAS学習

1. アクセル全閉位置学習を完了していること。
2. エンジン及びトランスミッションを十分暖機する。(水温70℃以上、100℃以下)
3. N又はPレンジでエンジンにエアコン負荷、パワステポンプ負荷
及び各種電気負荷がかかっていないことを確認する。
4. アクセル全閉のままSWをONにする。
5. キーSW ON後3秒経過してから、ただちにアクセル全開、全閉を5秒以内にすばやく5回繰り返す。
* アクセル全閉で終わる。
6. アクセル全閉から約7秒後にアクセル全開にし、20秒間(①)その状態を保持。
①約10秒後にエンジン警告灯が点滅が始まる。その10秒後にエンジン警告灯が点灯する。
7. エンジン警告灯が点灯したら5秒以内にアクセルを戻し(全閉) エンジンを始動する。
→急速TAS学習開始(エンジン警告灯消灯)
8. 約20秒間で学習は完了するので、その間はキーSWをOFFしないこと。
9. キーSWをOFFにし、約10秒以上経過してから再始動させる。

ダイアグクリヤ方法

概要

エアフロセンサー交換や電子制御スロットル又はECCS C/U のコネクターを外した場合など、エンジン始動後にエンジン警告灯が点灯する場合があります。自己診断エラーなどによる警告を表します。

自己診断(ダイアグ)の警告クリアを行うことにより、エンジン警告灯は消灯する。

ダイアグクリヤ後の走行で再度エンジン警告灯が点灯する場合は、最寄りのディーラーにて調査が必要。

操作方法

- 1, アクセル全閉のままSWをONにする。
- 2, キーSW ON後**3秒経過**してから、ただちに**アクセル全開、全閉を5秒以内にすばやく5回繰り返す。**
* アクセル全閉で終わる。
- 3, アクセル全閉から約**7秒後にアクセル全開**にし、約**10秒間**(エンジン警告灯の点滅が始まるまで)その状態を保持する。→**自己診断開始**
- 4, アクセルを戻し、もう一度、**アクセル全開**にしてその状態を**10秒以上**保持する。
- 5, アクセルを戻せば、ダイアグクリヤされます。
- 6, キーSWをOFFにして終了。